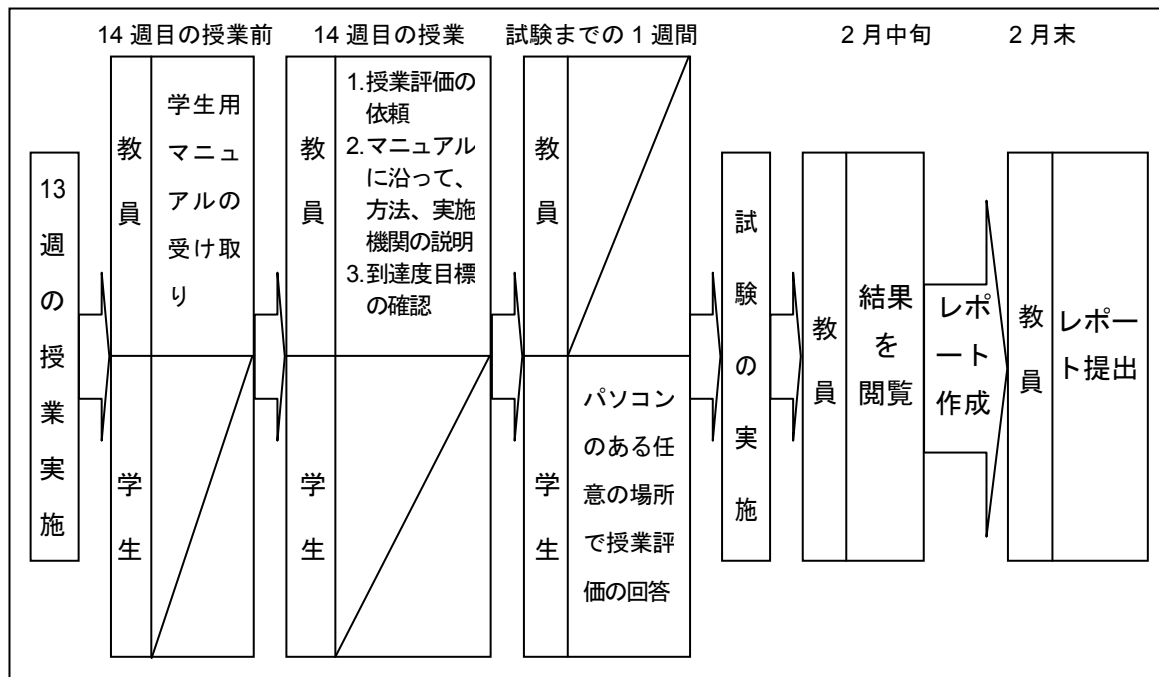


## IV. 授業評価アンケートの実施及び結果・考察

### A. 授業評価アンケートの必要性？

本学では平成13年度より、教員の資質向上を図り、学士課程教育の質的向上を推進するために、「学生による授業評価アンケート」を継続的に実施してきた。平成20年度は、特にシラバス（計画）、授業（実行）、授業評価（評価）、授業改善（改善）を連結して教育効果を高めていく、教育活動におけるPDCAサイクルの定着を目指して実施されるものとその目的・必要性を明確に謡って実施された。次は今年度の実施スケジュールである。



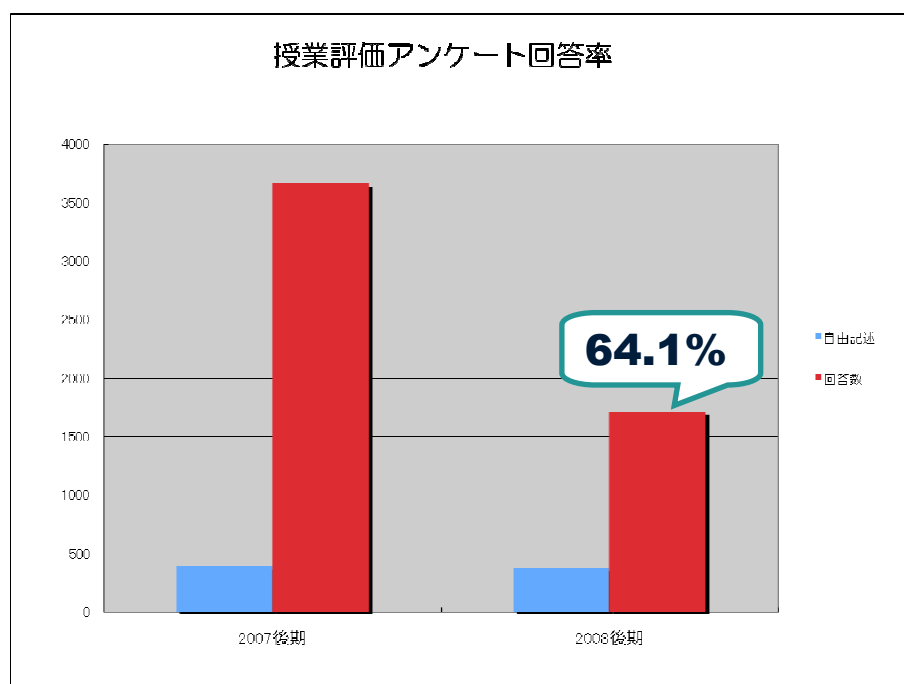
今回特に記述すべきことは、昨年までマークシート方式によって集計していたアンケート実施方法を、新たに導入されたパソコン上で行う「ユニバーサルパスポート」に変更したことである。このことにより、事務職員の物理的負担を大幅に軽減しただけでなく、授業の15分を削ってアンケートに当てる必要がなくなり、無駄がなくなった。また、結果について各教員が個々に閲覧できるようになり、結果に対するより主体的な関わりが持てるようになったことが大きなメリットであったと言えるであろう。しかし一方、一般論として予想できたことであるが、回答率が一時的に低下したことが問題点としてあげられる。なお、このシステム導入についての試行期間と平成20年度を位置づけたため、対象を専任教員に限定し、かつ前期については実施を見送ることとなった。その間、アンケート項目の見直し、マニュアルの整備、試験的アンケートの実施など周到な準備を行った。

その他、今年度は前述のPDCAサイクルを念頭に置いた上、ちょうど平成19年9月、大学卒業までに学生が最低限身につけなければならない学習成果として「学士力」という概念が中央教育審議会の大学分科会小委員会によって提示され、本学の学士課程教育も、この答申に則って、教育の質の保証を考えなければならないと考えたことから、まずアンケート対象授業のシラバスに到達度目標を明記することを徹底し、授業評価アンケート項目の中に、

その到達度目標の達成度を回答する項目を追加したことも、大きな動きであったと言える。そして、昨年までは授業評価アンケートの結果を受けて「振り返り」の執筆を要請してきたが、それを発展させ、「授業評価アンケート結果に基づく自己点検・評価及びFD活動案」と称してより詳細な授業の振り返りと授業改善案の提示を教員に求めた。特に、新規項目である到達度目標の達成度については、必ず振り返りのコメント(C)をお願いし、シラバス(P)との連関を確立するように企図した。FD活動案(A)は、その振り返り作業を土台にして作成された。

平成21年3月10日の大学研修会においては、昨年度に引き続いて教員研修（FD活動）として学内での個人及び組織のFD活動報告を行ったが、新しい試みとしてFD活動案の内容をもとに、いくつかの重点項目（到達度目標の達成度を含む）で共有すべき点があると思われる複数の教員に報告をお願いした。学内でより具体的なFD活動の共有ができたと思われる。

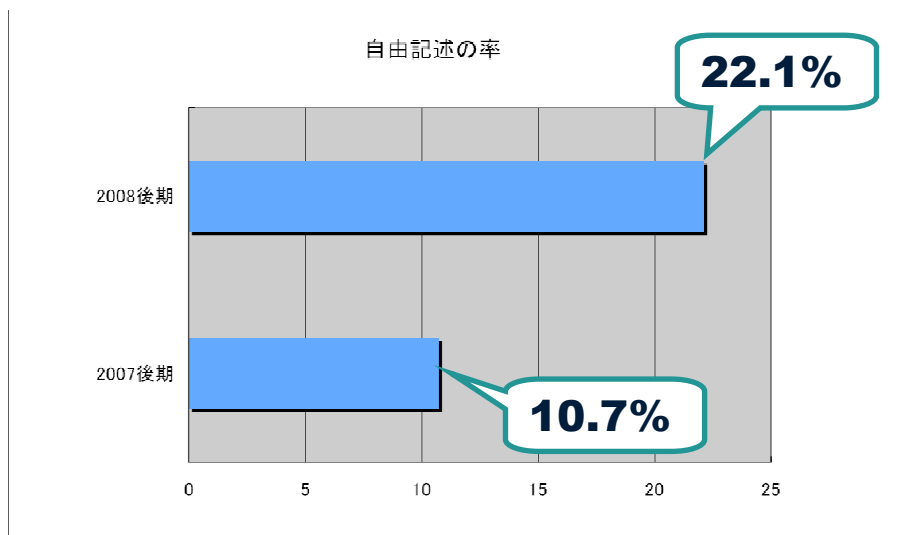
## B. 授業評価アンケート回答率



(図 1)

Aでも指摘した通り、ユニバーサルパスポートの導入に伴って、昨年度までは90%前後であった回答率が64.1%にまで低下した。これはシステムの導入に際して業者から他大学においても一般的な傾向であるとの予告を受けていたので、ある程度予想通りであったと言える。

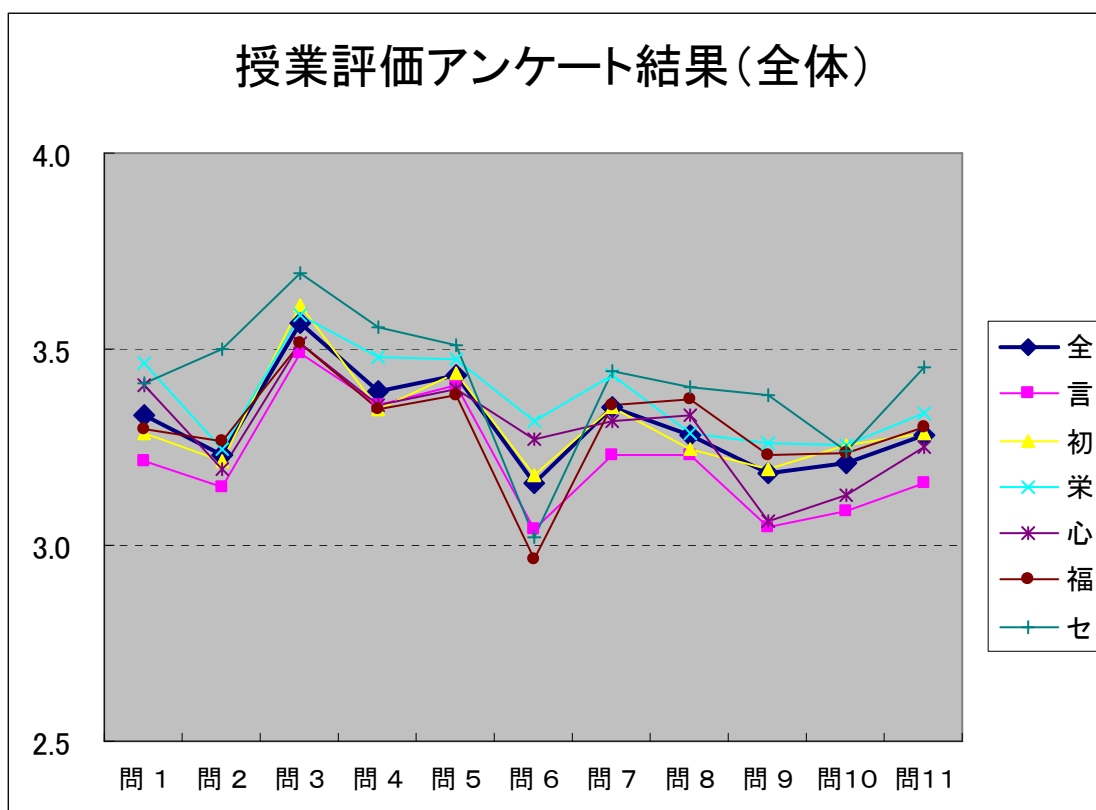
ただし、図1の青い棒グラフが示す自由記述の回答数に関して言うと、昨年度も今年度もほぼ同数である。図2が示す通り、回答率で言えば昨年度が10.7%であったのに対して、今年度は22.1%と倍増している。



(図 2)

これは、パソコン上で同じ書式上で記入できる気軽さが要因になっていると考えられよう。

### C. 全体を通しての考察



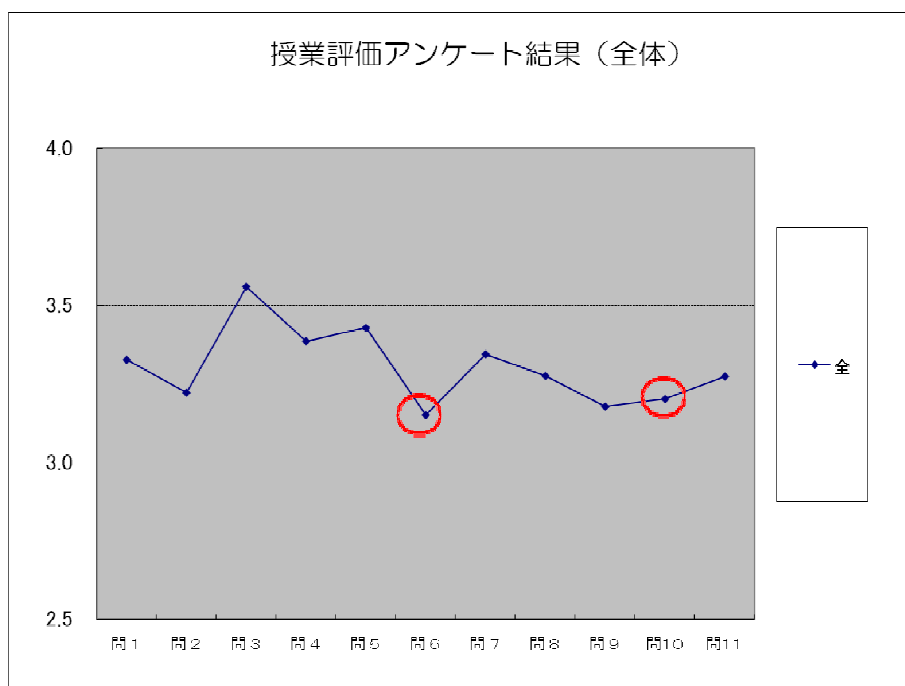
(図 3)

図 3 は全学総合の結果と各学科の結果及び総合教育研究センターの結果をまとめたグラフである。一瞥すると全体的にはほぼ昨年通りの結果であった。回答率の高い学科が若干低い平均点として表れているように思われるものの、全体の全項目の平均は 3.31。4 段階評価で 3.31 はかなり高いといえるのではなかろうか。また、本学の先生方の熱心さ (問 3) は群を抜いて高い得点を上げており、ある種本学の教育体制の特色を色濃く映し出しているとも言える。あえて言えば評価が上げ止まりに近い状態であるという指摘も可能である。ただ、これは他大学の授業評価

でも似たように結果が出ており、多くが5段階評価のところ、平均4点前後であることを考えても、これが授業評価の一般的傾向なのかもしれない。

次に、着目すべき項目を挙げるならば、問6) (教員は学生の遅刻や秩序を乱す授業態度に関して、適切に対応していましたか。)と問10) (この授業を受けて、シラバスに到達目標として掲げられている知識や能力を獲得できましたか。)の2項目である。問6)は昨年度と比較して若干低い評価が出たと思われる項目、問10)は今回初めて取り入れられた項目である。

問6)だけがなぜかどの学科も昨年を下回っているのが特徴的であった。これについては特意的を射る分析はこれまでのところできていないが、基本的には大学において遅刻などの現象に対して特に対処することなく教育活動が継続的に行われてきているのが、本学に限らず一般的なのかもしれない。何かの拍子に指摘モードに入ると取り上げたくなる領域なのかもしれない。



(図4)

問10)に関しては、到達度の実感が満足度を少し下回っている。昨年同じ項目があってもおそらくそうだったのではないかと推察できる。それは、「好きな授業である」「面白い」という感覚と、ではその知識が実生活で想起できるかという感覚には深刻ではないまでも若干の乖離がある。満足度に満足せず、試験の成績、レポートなどから垣間見る学生の領域別レトリックの具合も振り返りの判断材料にし、FD活動案を練り上げる必要があるだろう。

#### D. 今後に向けて

ユニバーサルパスポートを使用するようになったため、学生にとって自由記述は容易であったろう。自由記述が増えたため、自己点検は数字ではなく肉声によるフィードバックをもとに自己点検をした人が増えたのでは、と推察できる。これにより、コメントの種類や内容もやや多様化したかもしれない。

これからの方向性として、回答の精度を上げるために、いかに回答率を上げるかが一つの課題となる。まずは、チューターガイダンス（とくに1年生の4月のチューターガイダンス）で「授業評価アンケートは履修と同様の必須事項である」と指導することは必要となる。次

に、アンケート入力ページのレイアウトに工夫が必要であろう。ユニバーサルパスポートにおける授業評価アンケートのトップページが「確認事項」になっているようなレイアウトを工夫する必要がある。

つとに問われていることとしては、授業評価における評価者としての学生の能力、資格の信頼性がある。このような問題意識が生起するたびに「では集めて講義し教育しましょう」という対応は現実的ではないし、対症療法にすぎると言わざるを得ない。むしろ、それぞれの授業において各々の教授内容によって、評価者としての学生の能力、資格を育ててゆく方向性のほうが現実的だし教育的ではないだろうか？すなわち、学生の「評価力・評価眼」の育成ということになる。が、それは換言すると「学士力」の中核をなす問題発見能力、問題解決的思考ということになる。さらにそれが学科・ゼミ単位において展開されるならば、大学全体を挙げての「学士力」育成ということになるのではないだろうか？

なお、授業評価のあり方については様々な方向性が考えられるが、将来的な展望としては、授業評価をうけての自己点検が授業研究につながるような道筋を探ることが視野に入ってくる、と指摘してこの項のまとめとしたい。

(報告者：三熊祥文)

## E. ユニバーサルパスポート上の評価アンケート項目

http://210.166.30.55 - UNIVERSAL PASSPORT EX - Microsoft Internet Explorer

123456789 科目A(教員B)

### 2008年度 広島文教女子大学 授業アンケート

授業アンケートは、授業やカリキュラムの改善を目的に実施されるものです。回答結果は厳正に管理し、コンピュータで一括処理しますので、個人データを特定して個別に扱うことは決してありません。また、担当教員には個人名などの情報は開かれ、結果がフィードバックされますので、回答内容が成績評定などに影響を及ぼすことも一切ありません。集計結果は学内ネットに公表します。

回答は選択式の○の欄をクリックしてください。問10は、空欄に具体的な記述もあっても構いません。できるだけ最後の自由記述欄にもご記入ください。

#### 授業・教員に関する質問

問1) 教員は毎回授業のねらい(目標)などの情報をはっきり示しましたか。(必須)

とてもそう思う  そう思う  そう思わない  全くそう思わない

問2) 教員の話し聞き取りやすかったですか。(必須)

とてもそう思う  そう思う  そう思わない  全くそう思わない

問3) 教員は熱心に授業を行っていましたか。(必須)

とてもそう思う  そう思う  そう思わない  全くそう思わない

問4) 教員は学生からの質問・意見に適切に対応していましたか。(必須)

とてもそう思う  そう思う  そう思わない  全くそう思わない

問5) 教員は学生と公平に関わっていましたか。(必須)

とてもそう思う  そう思う  そう思わない  全くそう思わない

問6) 教員は学生の進路や興味を踏まえ授業態度に関して、適切に対応していましたか。(必須)

とてもそう思う  そう思う  そう思わない  全くそう思わない

問7) 教材等の準備や指示方法は、授業の理解を深める上で効果的でしたか。(必須)

とてもそう思う  そう思う  そう思わない  全くそう思わない

問8) 授業の時間配分は適切でしたか。(必須)

とてもそう思う  そう思う  そう思わない  全くそう思わない

問9) この授業は分かりやすかったですか。(必須)

とてもそう思う  そう思う  そう思わない  全くそう思わない

問10) この授業を受けて、シラバスに示された到達目標として掲げられている知識や能力を獲得できましたか。(必須)

とてもそう思う  そう思う  そう思わない  全くそう思わない

問10)についてシラバスに示された到達目標と照らし合わせて、獲得できた能力、あるいはできなかった能力も、具体的に記述してください。(必須)

問11) 全体としてこの授業に満足していますか。(必須)

とてもそう思う  そう思う  どちらとも言えない  そう思わない  全くそう思わない

#### 自由記述欄

この授業に関して、①全体的な印象、②授業の組み立て、③教員や教授法、④改善すべき点、⑤その他欄に記しておきたいことなどを、下欄に記述して下さい。

ご協力ありがとうございました。

戻る

スタート | Windows Explorer | Microsoft Office Word | Microsoft Excel | 広島文教女子 | http://210.166.30.55 | http://210.166.30.55 | 11/16

## F. 教員向け授業評価アンケート案内

平成21年1月7日

広島文教女子大学教員各位

FD 専門委員会

### 平成20年度（後期）授業アンケート実施について

先生方におかれましては、平素より本学のFD活動にご支援ご協力を賜り、感謝いたします。

先般よりお願いしております授業アンケートを、下記の手順で教員用のマニュアル（サイボウズ及びメールにて発信済み）に従って実施いただきますようお願いいたします。今回は、すでに教授会でご連絡差し上げたとおり、ユニバーサルパスポートを活用してアンケートを実施いたします。

**なお、同封の学生用マニュアルは、履修生の人数分だけ揃えております。**また、授業アンケート項目につきましては、教員用マニュアルと同時に配信した添付ファイルをご覧ください、あらかじめご確認いただきますようお願いいたします。

#### 記

1. 実施期間 1月8日（木）～1月31日（土） [各曜日の14週目～1月末日まで]
2. 実施時間 原則として、該当科目の14週目の開始時（今回は、学生にマニュアルを配布し、指示文を音読して学生の協力を促すのみとなります。書類回収などの必要はありません。）
3. 実施対象 全教員（専任教員のみ。複数担当教員の場合は試験直前の授業担当者。）
4. 対象授業 すでに提出された希望届に記載の科目。
5. 実施 先生方におかれましては、あらかじめ配信（もしくは配送）された「教員用マニュアル」をご精読いただき、手順をご確認ください。  
学生にご説明いただくにあたっては、**当該授業のシラバスを再提示するなどし、特に到達目標の項目について学生の再確認を促した後**、教員用マニュアルの朗読用指示文を音読することによって、アンケートに回答する旨の指示をお願いいたします。

G. 授業アンケート結果を受けてのふり返り（自己点検・評価）と FD 活動案作成について（お願い）

平成 21 年 2 月 12 日

広島文教女子大学  
教員各位

広島文教女子大学  
FD 専門委員会

**授業アンケート結果を受けてのふり返り（自己点検・評価）と FD 活動案作成について（お願い）**

先生方におかれましては、平素より本学の FD 活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝いたします。

さて、平成 20 年度の後期授業評価アンケートが終了し、先生方には 2 月 2 日よりその結果が閲覧できるようになっております。結果の確認及び計算表によるデータの処理の手順に関しましては、1 月 9 日付で先生方にメールで配信しました「教員用マニュアル」に説明がありますので、ご参照ください。また、計算用のエクセルファイルにつきましては、本メールと同時に配信しておりますので、ご活用ください。

さらに、以前よりお伝えしておりました通り、FD 活動における PDCA サイクルの一環として、本アンケート結果を受けてのふり返り(自己点検・評価)及び FD 活動案を作成していただきたいと思っております。添付のフォーム及び例をご参照の上、ご作成いただき、下記メールアドレスまでご提出ください。

記

**提出期限：平成 21 年 2 月 26 日（木）17：00 まで**

**提出先：メールアドレス [knakamoto@h-bunkyo.ac.jp](mailto:knakamoto@h-bunkyo.ac.jp)**

※今回お送りしたファイルは以下のとおりです。「自己点検サンプル（1 文書に 3 つのサンプルが入っています）」、「自己点検フォーム」、「計算表」、「教員用マニュアル補遺版」、「FD 活動（例）」

※本自己点検・評価は、個人のふり返りだけでなく、組織全体における FD 活動の手法やアイデアの共有を実現していく活動へと発展していくものと考えております。

※ご自身の FD 活動案をお考えいただく際の参考例として、「FD 活動（例）」の文書もあわせて配信させていただきました。お役立ていただけたらと存じます。

※なお、かねてからお知らせしていますように、先生方の自己点検・評価及び FD 活動案の中で、特に学内で共有していただくことが望ましいと考えられるものを学内研修会にてご報告いただくこととなります。推薦された先生方にはご無理をお願いすることになるとは存じますが、学内での情報の共有を促進するという意図をお汲み取りいただき、ご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

※ご不明な点がございましたらメール（[knakamoto@h-bunkyo.ac.jp](mailto:knakamoto@h-bunkyo.ac.jp)）にてお問い合わせください。

以上